

社会に  
いい  
回転を。

**NKC**

# CSR 報告書 2017

2016年4月-2017年3月期  
活動報告

# 編集方針

中西金属工業株式会社では、CSR活動に対するビジョンや取組内容について、社内外の関係者の皆様へ広くお伝えすることを目的としてCSR報告書を作成しています。

作成にあたっては、前年度発行号でのアンケートで寄せられたご意見を反映し、見栄えや読みやすさについて改良を図っています。

また、2017年度発行分からは、報告内容を「ダイジェスト版」と「詳細版」に分け、必要な方が必要とする情報を効率的に取得して頂けるように編成しました。

## CSR報告書2017詳細版について

### ■ 報告対象組織

原則として、中西金属工業株式会社におけるCSR活動についてご報告しています。

報告内容にNKCグループの関連会社を含む場合は、個々の記事に会社名を記載しています。

### ■ 報告対象期間

2016年度(2016年4月～2017年3月)

### ■ 参照ガイドライン

国連グローバル・コンパクト

### ■ 発行時期

今回:2017年8月1日

前回:2016年8月1日

次回:2018年8月1日(予定)

### ■ 報告媒体

本報告書は「詳細版」です。年間トピックと特集記事を詳細版から抜粋した「ダイジェスト版」は冊子を請求されるか、コーポレートサイトよりご覧頂けます。

※ダイジェスト版の特集記事の内容は本報告書と同じです。



#### 詳細版

※本冊子



#### ダイジェスト版

年間トピックと特集記事を  
詳細版から抜粋して掲載。

年間トピックと特集記事に加え、  
テーマ別の詳細な活動結果について掲載。



#### 冊子請求先(お問い合わせ先)

中西金属工業株式会社 CSR統括部CSR室  
大阪市北区天満橋3丁目3-5  
TEL 06-6351-4832



#### コーポレートサイト CSR報告書掲載ページ

[http://www.nkc-j.co.jp/eco\\_csr/csr\\_dl.html](http://www.nkc-j.co.jp/eco_csr/csr_dl.html)

## 報告書への主なご意見と改善のポイント

### 主なご意見

成果を分かりやすく記載してほしい。  
既存活動の継続や、進捗が悪かった活動の進捗にも期待する。

全体的に文字が小さく量が多いため、読み込んで理解するには難しい。  
イラストや写真を中心にすべき。

NKCグループの色々な事業や、海外も含めた拠点別の活動についてもっと知りたい。

この紙がもったいない。  
紙の質、ページ数、配布部数を工夫しては？

### 改善のポイント

6・7ページの「2016年度CSR活動総括」にて、従来の〇×方式での自己評価をやめ、具体的な結果・成果を記載しました。(可能な範囲で数値結果も記載)

前回より文字を大きくしました。  
また、年間の大きな出来事を画像中心で紹介する特集ページを設けることで読みやすさを工夫しています。

中西金属工業株式会社の国内外拠点およびNKCグループ各社の活動(個人含む)を載せています。

報告書には森林破壊に関与していない紙を使用しており、ページ数・発行部数共に必要最少数としています。

# トップメッセージ

## 2024年の創立100周年へ向け、 輝ける未来を目指して 全社一丸で進んでいきます

取締役社長 中西 竜雄



NKCグループでは、これまでCSR活動を通じて企業の社会的責任を果たすべく様々な取り組みを行ってきました。

その一方で、世間では「コーポレート・サステナビリティ」の考え方が重要視されるようになってきています。企業は、環境・社会・経済の3つの方面でバランス良く貢献を果たすと共に自社の価値も高め、世の中全体を持続可能にしていくための長期戦略を持つことが必要になります。このような時代の変化に対応すべく、2016年4月にこれまでCSR分野に取り組んでいた部門を統合して「CSR統括部」を発足し、CSR推進体制を整備しました。これに伴い、今後は次の6つの項目について一層力を入れ取り組んでまいります。

### 1 国連グローバル・コンパクトの支持

2015年4月に国連グローバル・コンパクトへ加盟し、企業として世界的な課題解決への取り組みを開始しました。

そしてこの取り組みの実践について方針を明確にすべく、2016年にはNKCGループの企業行動憲章を刷新し、持続可能な社会の創造に向けてより倫理観を増した健全な企業活動を目標としました。

また、この企業行動憲章を形骸化させないためにも、社内での行動レベルにおける指針であるNKCスタンダードを展開させることで、社内啓発促進に繋げようと考えています。

### 2 コンプライアンスの徹底

コンプライアンスの実現には一人ひとりの意識や行動が重要であり、たとえ法令の範囲内であっても、自らに問いただすことのできる姿勢が、フェアな事業展開に不可欠であると考えます。役員・従業員一人ひとりが、日常業務の中で高い倫理観と責任感を持って行動することで、全てのステークホルダーの皆さんの信頼や期待に応え、革新的な製品やサービスを提供することで社会と共に発展を遂げていくことを目指しています。

### 3 安全衛生・環境管理

国内外の工場を取りまとめる総合安全衛生環境管理委員会では、安全・環境方針に基づいた改善活動、情報共有、水平展開、法令改正対応を主な目的として取り組んでおり、海外拠点も含めた対応の拡充を推進しています。

安全衛生分野では、安全は全ての作業に対して優先する方針のもと、国内外工場との間で安全衛生マネジメントシステムを展開・集約しています。2016年には国内外工場の安全衛生担当者と一緒に集めた世界安全大会を開催し、安全衛生のグローバル

展開のステップアップ推進を図りました。

環境管理分野では、NKCGループの環境方針に整合した環境マネジメントシステムのもと、継続的な維持・改善活動を行っています。

### 4 社会貢献活動

地域社会に対しては、コミュニケーションを通じて相互理解を深め、課題認識と解決および発展へ向けた貢献活動を積極的に展開します。地球環境、地域社会、社会貢献企業・団体、文化・芸術・スポーツなど幅広い分野におよび、「持続可能な社会」の実現に貢献します。

### 5 CSRのグローバル展開とあり方

海外では、社会課題への解決のために企業に対する期待は大きくなっています。地域のステークホルダーとの対話を増やすことで、海外拠点の主体性を尊重し、地域密着型の課題提起と解決を進めることは、新たな機会創出に繋がります。

NKCグループは、海外拠点におけるリサイクル活動、食糧支援、森林保護活動、植樹、孤児院・学校貢献・清掃活動など、現地従業員によるCSRの内発的・自発的な取り組みを奨励・推進します。

### 6 CSRの教育・啓発

CSR活動の健全性の維持と促進のために、CSR教育・啓発活動を実施します。

NKCグループでは、毎年「CSR報告書」を作成し社内に配布していますが、この「CSR報告書」の充実と有効活用を推進することにより、従業員のCSR意識の向上と行動に繋げ、同時にステークホルダーへその取り組みを知って頂く一助となることを願うものです。

安全・環境分野での教育訓練による意識の向上はもとより、100周年行事として和歌山県企業の森「NKCGループ 悠久の森」の植樹活動が2016年11月に行われました。その活動を通して森林保護・環境保全意識の向上だけでなく、従業員参加型のボランティア意識の向上を促進したいと考えています。

NKCグループは2024年に100周年を迎えます。

NKCグループのビジョン、「NKCGは、社員が社員である事に誇りを持ち続け、常に変革する企業を目指す」を常に意識し、社員と共に長期的な視点で意欲的に課題に取り組んでまいります。



# NKCグループCSR方針

NKCグループは、経済的・環境的・社会的に優良で安全な製品やサービスを開発・提供し、社会の満足と信頼を獲得することを使命としています。そして、文化や慣習に配慮した事業活動を展開し、当該国・地域の発展に貢献してまいります。

国連グローバル・コンパクトへの参加をきっかけに、2016年11月にCSR方針を刷新しました。次の「NKCビジョン」を企業理念に掲げ、「NKCグループ企業行動憲章」を遵守・実践し、これに付随する「NKCスタンダード」に社員一人ひとりが取り組みます。

## NKCビジョン（企業理念）

NKCは、社員が社員である事に誇りを持ち続け、常に変革する企業を目指す。



## NKCグループ企業行動憲章（会社の倫理規定）

### 1. 基本的使命

経済的・環境的・社会的に優良で安全な製品やサービスを開発・提供し、社会の満足と信頼を獲得することを使命とします。そして、文化や慣習に配慮した事業活動を展開し、当該国・地域の発展に貢献します。

### 2. 社会的規範の遵守

法令の遵守、各種国際規範の尊重はもとより、公正かつ自由な競争ならびに適正な取引を行います。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保ちます。

### 3. 情報公開および情報の取り扱い

広く社会とのコミュニケーションを積極的に行い、透明性の高い企業情報を積極的かつ公正に開示します。また、個人情報・顧客情報ははじめとする各種情報の保護・管理を徹底します。

### 4. 人権尊重

すべての人々の人権を尊重するとともに、人権侵害に関与・加担しません。また、人権侵害に関与する危険性や現行の状況における潜在的な影響力の認識と予防に努めます。

### 5. 就業環境の整備

NKCグループに関係するすべての人々の多様性を尊重するとともに、不当労働の強制や児童労働には一切関与せず、差別のない安全かつ健全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現します。

### 6. 環境対応

環境への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、自主的、積極的に行動するとともに環境問題に対する予防性を確保します。

### 7. 社会貢献

事業活動を通じて積極的に社会的課題の解決に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。

### 8. 反社会的勢力との対決

市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決し、関係遮断を徹底します。

### 9. 企業倫理の徹底

経営トップは、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、NKCグループ全体に周知徹底させ、取引先にも促します。また、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制の整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図ります。

### 10. 問題解決

本憲章に反するような事態が発生したときには、経営トップ自らが問題解決にあたる姿勢を内外に表明し、その事実関係を明確にし、原因究明と再発防止に努めます。また、社会への迅速かつ的確な情報公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にした上で、自らを含めて厳正な処分を行います。



## NKCスタンダード（従業員の倫理規定）

### 「NKCグループ企業行動憲章」と国連グローバル・コンパクトとの関係

国連グローバル・コンパクト		NKCグループ 企業行動憲章
人権	原則 1: 企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、 原則 2: 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。	4
労働	原則 3: 企業は、結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持し、 原則 4: あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、 原則 5: 児童労働の実効的な廃止を支持し、 原則 6: 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。	5
環境	原則 7: 企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、 原則 8: 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、 原則 9: 環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。	1.6
腐敗防止	原則 10: 企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。	2.8.9

## わたしたちのCSR活動

### 「CSR活動」ってなんだろう??

会社が持続的に継続していくために、お客様や従業員、社会や環境を大切にしていける活動を「CSR活動」といいます。「CSR活動」は、本来は会社に対して求められる取り組みですが、分かり辛いと感じられている方も多くいます。そこで、より身近に分かりやすくお伝えするため、会社のCSRを個人活動に当てはめてご紹介します。

## 地域の防犯・防災活動に積極参加

シー・ティ・マシン株式会社 東京営業所 濱口 鉄矢 さん

住んでいる地域で実施される防犯・防災活動の手伝いをしています。夜間巡回や防災訓練などのほか、地域の清掃活動にも積極的に参加し、安全で安心して暮らせる街づくりに協力しています。地域のコミュニティが機能すれば、犯罪や災害などの危機に対して、互いに助け合い乗り越えることができます。今後も、地域の活性化のために協力していきたいと思っております。



## 「TABLE FOR TWO」活動への協力

愛知営業所 松田 彩香 さん

私は学生時代、国際問題に特化した学科で学んだ経験から、社会貢献活動に関しては常に傾意識しながら生活する習慣が身に付いています。最近では、外食をする際には「TABLE FOR TWO」※という社会貢献プログラムを導入しているレストランを選択するように心掛けています。

※日本のNPO団体が進めるプログラムで、対象となる定食や食品を購入すると、1食につき20円の寄付金が、団体を通じて開発途上国の子供たちの給食になります。



## 学生さんの真剣な姿に感動

須田商事株式会社 長島 俊夫 さん

須田商事では、従業員の出身校である特別支援学校に、廃棄処分になる木工ボードを木工教材用に提供しています。業務を通してこの活動に携わる中、学生さんが真剣に「ものづくり」をしている姿にとっても感動しています。この活動のほかにも、地域の就労支援連絡会議に出席し、安全面や作業手順についてのアドバイスをさせてもらうなどのお手伝いをしています。



## 資源のリサイクルに協力

イーグローバレッジ株式会社 本社 浅羽 俊介 さん

資源の少ない日本では、ごみのリサイクルはとても大事なことだと思います。実際、他国と比較してもリサイクル率は高いようですが、私自身もリサイクル活動に協力するために自治体の決まりをしっかりと守って分別しています。例えばプラスチック容器や空き瓶・空き缶は水で中身を洗い、段ボールはホチキスの針も全部外してから回収に出すように気を付けています。



## ごみの分別・リサイクルを徹底

NKC OF CANADA, INC. 野村 誠 さん

私が住んでいるカナダの地域では、ごみの分別に厳しいルールがあり、専用BOXで確実に分別しています。今年からは更にルールが厳しくなり、いわゆる「プラスチック」も細かく分類されるようになりました。日本に住んでいた時も積極的に分別していましたが、更に環境意識が高まりました。一人ひとりの小さな取り組みが重なって地球環境の維持・向上に繋がっていくのだということを実感できます。



## プライベートでも省エネを実践

THAI NAKANISHI CO., LTD. 大村 文彦 さん

タイの拠点はISO14001を取得しており、社内で推進している省エネをプライベートでも実践するよう心掛けています。タイは常夏の国ですので、年中エアコンを使用するような環境ですが、単身赴任のため自宅のエアコンは日中使用せず、帰宅時には外気温が下がっているのので1台だけ稼働させて、設定温度も28～29度前後にしています。外出時には各電化製品の電源を落とすようにもしています。



## 原付バイク通勤で環境もお財布も省エネ化

厚木出張所 稲岡 潤一郎 さん

通勤や近場への買い物には自動車を使っていましたが、このたび、学生時代の原付バイクを大阪から神奈川まで運んできました。原付バイクでの通勤にシフトしたことで、燃料の消費がかなり抑えられました。燃費の面で地球環境に貢献していることはもちろん、毎日乗っても燃料費が安いのでお財布にも省エネです。次は自転車にシフトして、ガソリンではなく脂肪を燃やします。



## 地産地消でいいことづくし

播州中西金属株式会社 井上 恵美 さん

我が家の食卓はいつも地元産の新鮮野菜で彩られています。休日にエコバッグを持参して近隣の直売所に出かけ、野菜はもちろん、ジャムやお寿司など地域の方の色々な手作り食品をお安く買い求めています。直売所の利用は私も家族も喜ぶ、ひいては生産者である地元農家さんも喜ぶ、というまさに「いいことづくし」なのです。今後もこのような形で地域との繋がりを続けていきたいです。



## 1人でECOチャレンジ

本社 ウェブサイト統括部 森 正樹 さん

昨年、10年以上乗り続けた愛車をついに乗り換えました。新しい車には、環境を意識してECOモードが搭載された車種を選びました。運転中は常に燃費の表示が出ているので、以前よりも燃費を意識するようになってきました。市街地だとなかなか苦戦しますが、どこまで燃費が向上していくのか、楽しくチャレンジしながら運転しています。





# NKCグループCSR方針

**2016年度CSR活動総括** NKCグループのCSR活動における重要課題と、各課題に対する2016年度時点の取り組み状況をまとめています。

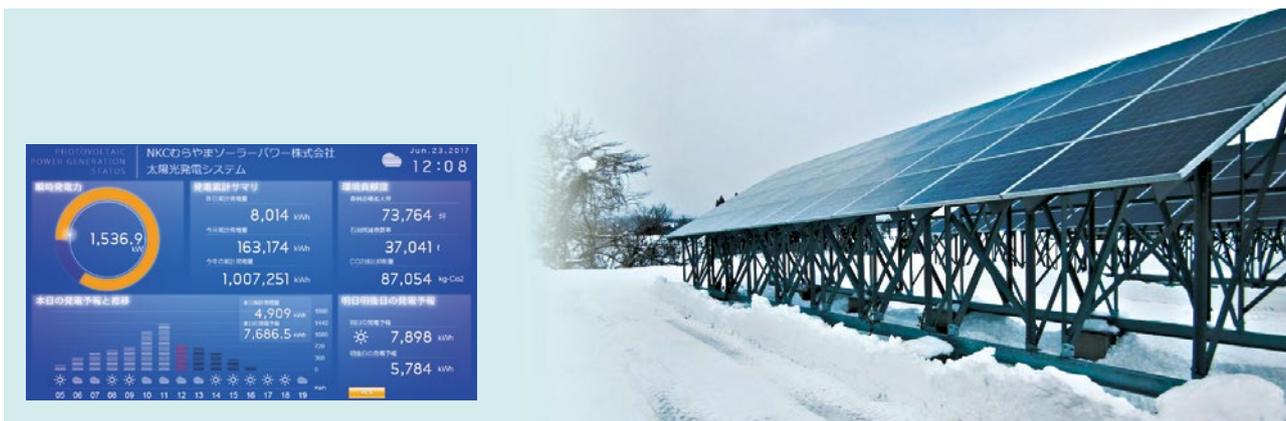
重要課題	活動方針	2016年度 活動実績	頁	2017年度以降の計画
<b>人権・労働慣行</b>				
人材育成	目的・対象別 教育・研修	【新入社員】入社時研修開催（本社説明会、工場実習、海外語学研修）	14	工場実習・語学研修を交えた入社時研修の継続
		【新卒入社2年次】基本的なビジネススキルのフォローアップ研修開催		2年次社員へのフォローアップ研修の継続
		【中堅社員】幹部候補育成のための新規事業立案研修（経営人材塾）開催、事業化案1件を経営側へ提出		・事業化案の検討継続 ・新たなテーマでの研修スタート
		【基幹職】新任基幹1級職への目標管理研修開催、関連会社2社へも展開開始		業務目標の設定・進捗管理に関する基本研修の継続
ダイバーシティ & インクルージョン	ワーク・ライフ・ バランスの推進	性別によらない優秀な人材の採用へ向けた取り組みの水平展開開始、本社・工場間で社長を交えた検討会の開催と学校への訪問ヒアリング実施	13 ・ 15	男女比率平準化へ向け、拠点間検討会および採用活動を継続
		女性活躍推進のためのプロジェクトメンバー召集、女性従業員へ現況ヒアリング実施（なでしこプロジェクト）		男性メンバーの募集、プロジェクト第二期スタート
		育児休業規定に男性の育児休暇に関する条項の追加（男性利用実績9名）、この改定により「くるみんマークつ星」を獲得		規定の社内周知と男性従業員の育児取得促進
		在宅勤務制度の導入準備（管理職および一部部署によるトライアルの実施）		制度導入および対象の拡大を検討する
	労働組合との連携による有給休暇の取得推進、9日/人の取得目標設定	引き続き、取得目標9日の達成を目指す		
ハラスメント防止	日常的な残業実施状況の確認および労働組合への情報共有等を実施、前年比較で残業時間減	日常的な管理の継続と管理職への啓発を進める		
労使関係	健全で良好な 労使関係の構築	経営課題や就業環境等に関する労使協議会の開催およびNKCグループ内支部別事務折衝、春闘交渉の実施	16	引き続き協議等を通じて社員の意見を聴取・反映する
		定年後再雇用者の処遇および働き甲斐の向上をテーマに「定年後再雇用制度検討分科会」立ち上げ、検討会議の都度開催		検討会議の定例化、懸案事項に対する会社回答を年度内に提出する
労働安全衛生	労働安全衛生管理	国内外工場の安全衛生担当者を集めた「世界安全大会」の初開催	17	海外工場へは従来通り内部監査・定例会議を実施。大会は2-3年周期で開催。
		本社スタッフによる内部監査の実施（国内9工場、海外4工場）、指摘事項の改善確認		工場独自の取り組みを好事例として工場間で共有していく
	事故・災害の防止	不休災害以上年間0件の8工場（国内5工場、海外3工場）に対し無災害表彰の実施	18	表彰工場数が増えるよう、無災害への取り組みを継続
		各種安全教育（有資格者への専門教育、階層別教育、朝礼時の基本教育）の実施		講習等による教育と、日々の情報共有による啓発も継続
		新たに導入する機械設備および化学物質に対するリスクアセスメント活動の徹底		化学物質に対するリスクアセスメント活動をより掘り下げていく
		KYトレーニングや日々の教育、KYカードの利用促進などの推進活動を通じた潜在リスクへの気づきの啓発実		引き続き安全意識の向上を図る
	健康保持・増進	社用車運転者への安全運転講習実施	19	安全運転意識の一層の向上を目指し講習を継続
		火災発生を想定した消防訓練の実施		「予防・早期発見・復旧」の一連の対策について検討着手（BCP）
火災発生を想定した消防訓練の実施		「からだ」と「こころ」両面でのフォローを強化していく		
メンタルヘルスケア	健康づくり推進の啓発冊子「健康手帳2016」を発行、連動イベントの開催により888名に参加賞配布	20	全国労働衛生週間に合わせ、健康づくり推進イベントを開催	
メンタルヘルスケア	ストレスチェック「ココロの健康診断」の実施対象を全直接社員へ拡大		全直接雇用者対象にストレスチェックを継続	

重要課題	活動方針	2016年度 活動実績	頁	2017年度以降の計画
<b>環境</b>				
<b>環境保全</b>	環境管理	国内6工場にてISO認証に基づく外部監査の受け入れ、指摘事項改善済	21	監査実施に対し積極的な協力を継続
		本社スタッフによる内部監査の実施、指摘事項の改善確認		的確な指摘の実施と早期改善への進捗管理を継続
		原単位管理・デマンド管理の実施、年間目標達成	目標値達成へ向けた各種活動の推進と進捗管理の継続	
		産業廃棄物処理業者につき対象全社への現地確認実施(問題点無し)	処理業者の法令遵守状況につき計画的な確認の実施継続	
	省エネ	年間の環境パフォーマンスが特に優れていた工場に対する環境大賞を名張工場が受賞	22	工場独自の取り組みを好事例として工場間で共有していく
		業界団体が設定するCO <sub>2</sub> 排出量削減目標の達成		省エネ活動推進による目標達成の継続
		再生可能エネルギーも含めた新電力の導入実施、6工場にて完了	導入を進めると共に、既導入分をより環境貢献度が高い製品に切り替えていく	
	省資源	Fun to Shareキャンペーンに参加、社内でのクールビズ・ウォームビズの実施	23	カジュアルビズの継続
		社用車のエコカーへの順次切り替え継続中		導入済のエコカーについてもより効果的な車種へ入れ替えていく
	汚染防止(土壌・水質)	ゼロエミッション達成継続10年目	24	ゼロエミッション達成の継続
		リデュース・リユース活動の推進により、廃棄物の総量削減		リデュース・リユース活動の継続により廃棄物の一層の削減を進める
		敷地内排水処理施設の水質調査、下水道の排水基準値内を維持	汚染防止のための調査・改善を継続	
地域社会への環境配慮	近隣河川の排水調査、排水基準値内を維持	25	汚染防止のための調査・改善を継続	
	近隣における地下水の水質調査、土壌汚染無しを確認		汚染防止のための調査・改善を継続	
	周辺地域への影響度について騒音・振動・臭気の点検実施、基準値内を確認	定期的な点検・改善の継続		
CSR経営	再生可能エネルギーによる電力供給事業の運営(太陽光発電)、新規立ち上げ一件進行(バイオマス発電)	25	バイオマス発電事業の供用開始	
	協力会社との連携のもと、秋田県由利本荘市にてC&F社製風車の稼働開始		C&F社製風車の販売促進	
<b>CSR経営</b>				
<b>組織統治</b>	内部統制の強化	CSR活動方針として企業行動憲章の改定および行動基準の新規制定	13・26	従業員への周知展開
	リスク管理	地震発生想定各種訓練開催(安否確認テスト、災害対策本部運営訓練、普通救命講習など)		訓練事項・回数増加、各拠点への水平展開
		備蓄品等、災害対策用物資の棚卸と拡充	計画的な購入の実施、各拠点への水平展開	
<b>公正な事業慣行</b>	コンプライアンスの徹底	情報セキュリティポリシーを子会社含む国内拠点へ展開完了	27	規定の遵守状況につき内部監査実施
		下請法遵守状況の適宜確認・改善の実施(契約書、発注書面、発注金額等)		社内担当者による適宜チェックの継続、行政委員会への問合せ等への積極的協力
		社内通報窓口の運用(通報0件)、社外通報窓口の周知活動実施(新入社員への啓発カード配布)		中途入社従業員へも通報制度について周知展開
<b>社会貢献</b>				
<b>貢献先との関係構築</b>	対話実施と活動への反映	地域の住民・団体と面談、要望のヒアリング実施	28	ヒアリングによる収集情報の活動反映
		社内アンケートを通じた従業員からの意見収集、CSR報告書への反映		収拾意見の活動反映継続
<b>貢献活動の推進</b>	地域・団体の活動支援	地域の予防防災活動への協力(防災用品の寄贈、消防団への参加)	28	地域の声に応じた必要品の寄贈継続
		熊本地震被災地に対する寄付の実施		国内外の被災地を対象に活動を継続
		国内外各拠点にて周辺地域の清掃活動を継続実施	清掃実施拠点を国内外へ拡大	
	生物多様性保全	飲酒運転防止プロジェクト(SDD)への賛同(協賛)、新卒内定者および新入社員への啓発実施	29	新卒内定者・新入社員への安全運転意識向上のため啓発を継続
		森林吸収系カーボン・オフセット5件実施、計102tのCO <sub>2</sub> をオフセット		CSR報告書の制作過程で発生するCO <sub>2</sub> のオフセット実施
社会福祉	和歌山県田辺市における森林保全活動(「企業の森」活動)について、県との契約締結、第一回の植樹活動実施	30	保全活動および植樹地を活用した福利厚生イベントの継続	
教育振興	高齢者・障害者就労施設を通じた就労支援(仕事発注)		就労支援施設の活用継続	
	社会福祉施設等への食料寄贈(2017年中期限到来予定の備蓄品)		同様の取り組みの継続および、自社でのフードバンク様活動実施の検討	
	奨学金財団の運営(奨学金113名42,165千円、研究助成金5件5,000千円)		必要に応じ、給付に関する要綱(指定校、金額、応募方法など)を改訂	

# 環境事業への参入

地球環境問題は国際社会において重要課題として認識され、取り組まれています。NKCグループでも、これまで長年にわたって環境管理活動を推進しており、今後は事業活動を通じた環境保全活動にも力を入れるべく、グループ会社を通じて新電力事業へ参入しました。この特集では、新電力事業の概要と、現在へ至るまでの取り組みの歴史をご紹介します。

## 【太陽光発電事業】むらやまソーラーパワー株式会社



むらやま発電所

### 太陽光発電事業参入、「むらやま発電所」立ち上げ

中西金属工業株式会社の100%子会社として、2014年10月にむらやまソーラーパワー株式会社が設立、太陽光発電事業に参入しました。

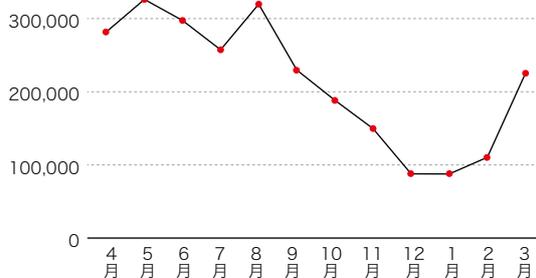
同社は山形県の中心部である村山市に大規模太陽光発電システム発電所「むらやま発電所」を設置、同業では珍しい積雪地帯での稼働となりました。

太陽光発電は、バイオマス発電や風力発電と同様に、発電時に二酸化炭素を排出しないクリーンな発電方式で、むらやま発電所の二酸化炭素排出抑制効果は約730トン/年になる見込みです。

### 「なばり発電所」スタート

また、2015年12月にはSBエナジー株式会社から、中西金属工業株式会社の名張工場で実施していた太陽光発電事業を買収し、「なばり発電所」として新たにスタートしています。

■ 2016年度の発電量 合計  
\*「むらやま発電所」および「なばり発電所」の合計量  
\*発電量単位はkW(キロワット)



## 【バイオマス発電事業】ながいグリーンパワー株式会社



ながい発電所

### 国内2例目となる発電方式を採用

2017年7月には、木質バイオマス発電事業を行うながいグリーンパワー株式会社が発電所の稼働を開始します。山形県長井市に設置された「ながい発電所」では、国内で2例目となる木質バイオマスガス化発電を採用し、含水率が高いチップでも効率よく使用することが可能です。年間発電電力量は1,480万kWhを予定しており、二酸化炭素排出抑制効果は約8,480トン/年になる見込みです。材料は長井市周辺から調達し、地元の環境保全に貢献しています。また、従業員を地元採用することで現地の雇用創出にも寄与しています。

## NKCグループ環境年史 ～持続可能な社会を目指して～

環境管理活動には1990年代より着手し、2000年代にはより本格的な活動を進め、年々取り組みを拡大してきました。現在では、従来の取り組みが実を結び、発展を続けています。

NKCグループは、地球環境問題を正しく認識したうえで、本当に必要とされる活動を実施し、持続可能な社会へ向けて貢献していきます。

西暦	NKCの取り組み	社会の動き
2002年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコカー導入開始</li> <li>・コンプレッサーの台数制御システム導入</li> <li>・LED等の省エネ照明導入開始</li> </ul>	
2003年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼロエミッションへの取り組み着手、『埋立廃棄物ゼロ』を目指す</li> <li>・コジェネレーション導入開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「環境教育推進法」制定</li> </ul>
2004年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アモルファス変圧器導入開始</li> <li>・省エネ型生産システムへの切り替えを本格的に開始</li> <li>・「大阪工場」 近畿経済産業局長賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ISO14001改定、2004版発行</li> </ul>
2005年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境方針制定</li> <li>・「天満地区」太陽光発電導入</li> <li>・「株式会社須田商事」ISO14001認証取得</li> </ul>	
2006年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大阪工場」ISO14001認証取得</li> <li>・「名張工場」ISO14001認証取得</li> <li>・「三重工場」ISO14001認証取得</li> </ul>	
2007年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・垂直軸型風力発電装置の販売開始</li> <li>・ゼロエミッション達成宣言</li> </ul>	
2009年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境製品を開発、販売する「EPD室」を設置</li> <li>・「天満製鉄事業部」ISO14001認証取得</li> <li>・「EPD室」ISO14001認証取得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の温室効果ガス削減中期目標を表明</li> </ul>
2011年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「NKC MANUFACTURING WUXI CORPORATION」ISO14001認証取得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の「固定価格買い取り制度」制定</li> </ul>
2013年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回おおさか交通エコチャレンジ賞優秀賞受賞</li> <li>・電子マニフェスト導入開始</li> <li>・生ごみ処理機の販売開始、「天満地区」に導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の温室効果ガス削減中期目標を見直し</li> </ul>
2014年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カーボン・オフセット活動開始</li> <li>・「天満地区」廃棄物自動計量システム導入</li> </ul>	
2015年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「NKC MANUFACTURING SWEDEN AB」ISO14001認証取得</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ISO14001改定、2015版発行</li> <li>・COP21開催、「パリ協定」採択</li> </ul>
2016年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「富士ホーニング工業株式会社」ISO14001認証取得</li> <li>・C&amp;F社製小型風力発電機の販売開始</li> </ul>	
2017年 【現在】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼロエミッション継続10年達成</li> <li>・環境方針改定</li> <li>・C&amp;F社製小型風力発電機がNK認証（風車の性能および安全性の適合性評価）取得</li> </ul>	

# 世界安全大会

NKCグループの90年以上に及ぶ長い歴史を通して、職場の安全衛生は常に重要課題として取り組まれてきました。日本国内の工場から海外工場へ、徐々に取り組みを展開・浸透させ、安全衛生水準の向上に努めています。この特集では、2016年度に初開催された「世界安全大会」の様子に加えて、海外工場における安全衛生への取り組みをご紹介します。

## 世界安全大会の初開催

長年にわたる安全衛生への取り組みにおいては、日本国内の工場を中心に浸透を進めつつ、海外工場に対しても会議や内部監査などを通じて個別に活動の展開と情報共有を行ってきました。

安全衛生水準を向上させるためには、工場内の現状に基づく改善活動も重要ですが、他工場の状況にも目を向けることで新たな発見と学びがあると考えています。

2016年9月、工場間の情報共有とヨコの関係強化を目的として、NKCグループ史上初となる「世界安全大会」を本社で開催しました。大会には国内外工場の安全管理担当者が一同に会し、2日間にわたる日程で様々なプログラムをこなしました。

プログラムは、各工場の「好事例紹介」を中心に構成し、危険予知訓練や工場見学なども実施しました。

安全衛生に関するテーマ別フリートークの際には、予定時間を過ぎてもお話が止まず、積極的な意見交換がなされました。

この大会を通じて得られたことは大変多く、工場間の関係構築と情報共有はもちろん、各担当者自身の意識向上や知識習得にも寄与できました。

今後は隔年開催を予定しており、プログラムを見直しつつ、互いの好事例を共有し、意識を高め合う場として活用していきたいと考えています。

### ■ 世界安全大会のプログラム

主なプログラム	
1日目	NKCグループ「安全衛生基本方針」の確認
	過去5年の無災害継続・災害発生状況共有
	ヒューマンエラーによる災害発生の原因分析
	危険予知活動(危険要因発見)の好事例紹介
	危険予知パトロール(実習)の実施
	参加各工場の取り組み好事例紹介
	朝礼開催方式の好事例「ミニ朝礼」の紹介
	海外工場による安全衛生活動トピックス発表
2日目	工場見学(大阪工場・名張工場・滋賀工場)
	テーマ別フリートーク

### 【写真で振り返る 世界安全大会】



NKCグループにおける安全衛生の歴史の中で史上初の世界大会を開催



実際の現場を使用した危険予知実習



大いに盛り上がったテーマ別フリートーク



大会2日目の工場見学および現地での意見交換会



工場内の「安全道場」(教育用スペース)を見学



記念写真(参加者一同)

## 海外工場における安全衛生活動ピックアップ –安全管理責任者・担当者より–

アメリカ

NAKANISHI MANUFACTURING CORPORATION

### 緊急時の人命確保へ向けた救命訓練の徹底

我々の工場では3つのエリアに各1台のAEDを設置し、周知しています。従業員は、1分半程度でエリア内のAEDにアクセスでき、3分以内にはAEDによる救命措置が可能です。また、ソフト面では全従業員対象のAED訓練を毎年実施しています。全員が毎年受講することで、操作方法をリマインドし、緊急時に迅速な対応ができるようにしています。更に、応急処置法の講習会も開催し、救命知識・技能の向上に努めています。



Mike Ramirez 毎年恒例のAED訓練の様子

アメリカ

NKC OF AMERICA, INC.

### 危険を伴う作業の安全教育を推進

我々の工場では、安全プログラムのリーダーが、安全と健康に関する様々なテーマの講習を毎月開催しています。ビデオや資料などを活用し、終了時には参加者へランダムに質問を投げかけて習熟度を確認するなど、内容を工夫しています。中でも、クレーンやフォークリフトは操作に危険を伴うため、安全教育を重視しています。年3回の実践訓練を開催し、参加者は、不注意が重大な労働災害に繋がる危険性を身をもって学んでいます。



Gene Bloodworth 実践訓練による教育の様子

スウェーデン

NKC MANUFACTURING SWEDEN AB

### 従業員への意識付けと全員参加を促進

常に注意を払い安全を優先して行動すれば労働災害は減らせます。我々は、従業員の参加を促しながら一層安全な環境を目指し、次の取り組みを継続的に推進します。①全会議で安全第一を掲げ重要性を示す／②工場内の不安全情報は掲示板で共有／③各職場の主要リスクを一覧化し対応／④安全と5Sをテーマに毎月内部監査を行って結果を掲示板で公開／⑤日常的な情報共有と教育訓練の実施



Anna Sjastad 安全・5Sの情報共有用掲示板

フィリピン

NKC MANUFACTURING PHILIPPINES CORPORATION

### 「安全週間」開始10周年

我々の工場では、毎年7月の第1週を安全週間に定めてイベントを開催しており、2016年度で10周年を迎えました。今年のテーマは、「リーダーシップと全員参加の危険防止」とし、期間中は、PAGASA(フィリピン気象庁)の担当者による地震・避難訓練講義のほか、安全クイズ大会や安全啓発ポスターコンテストも実施し、多くの従業員がチームで参加し盛況に終わりました。自分だけでなく周囲の安全にも目を配ることが大事である事を再認識する貴重な機会となっています。



平 省二 安全週間開催時の様子

中国

NKC MANUFACTURING WUXI CO., LTD.

### 安全と職場環境の両面で改善を推進

2016年度は、安全意識の向上を重視しました。まずは管理責任者の意識改革に取り組み、各専門部会で部長を務めることで各自の役割を定着させました。続いて職場環境改善に着手、①2S部隊による職場のスリム化②敷地内道路で歩道を区分③生産設備の安全カバー対策などを進めました。コンプライアンスにも目を向け、消防法の対応を徹底しました。今後も安全と職場環境の向上へ向け活動を推進していきます。



陳 保云 朝礼時の安全教育の様子

中国

NKC MANUFACTURING DALIAN CO., LTD.

### 無災害連続8年達成、目指すは10年

我々の工場は無災害記録を8年間更新し続けています。これは、全従業員が6S活動に努めた成果といえます。我々は6S活動の優先順位を「躰・整理・整頓・清潔・清掃・習慣」と決めています。ルールを教え徹底することで整理整頓を持続・習慣化させて不安全行動を完全に排除しようという意味です。また、リスクアセスメントや危険予知活動にも力を入れています。今後は第一目標の無災害10年達成を目指し、これらの取り組みを継続します。



白 雪松 6Sの張り紙と、整然とした工場

中国

NKC CONVEYOR FOSHAN CO., LTD.

### 地域との連携による消防演習を開催

消防安全意識や吐嗟の対応力の向上を目指し、毎年消防演習を行っています。2016年度は、我々の工場と地域の自治体との合同演習を開催し、緊急車両も投入され実践しながらの大演習となりました。初期消火や避難、負傷者救出などの基本知識の習得はもちろん、早期対応能力の向上の点でも非常に効果的でした。この演習以外でも、勉強会や教育活動の実施、消防器材メンテナンスなどを行い、消防安全の水準向上を進めています。



張 柳 消防演習の様子



シリーズ企画

# 100周年へ向けて

NKCグループは、2024年に創業100周年を迎えます。企業が経営を持続させることはCSR活動の大前提です。100年を超えても発展し続けるための取り組みについて、このシリーズを通してご紹介していきます。

## 周年行事報告:第一弾スタート 「NKCグループ 悠久の森」



和歌山県庁での調印式



参加者集合写真



「NKCグループ 悠久の森」遠景



イベント時の様子

### 「NKCグループ 悠久の森」誕生

環境貢献活動や福利厚生活動の充実を目的として、2016年8月に和歌山県が推進する「企業の森」活動に参加しました。

「企業の森」は、和歌山県が県下の森林を適切に管理・保全するために企業等の参加を推進する事業です。

参加企業は、人材や資金などの資源を活用し、自社のCSR活動を展開することができます。

NKCグループでは、世界遺産熊野古道に近い田辺市中辺路町の森林地をお借りし、「NKCグループ 悠久の森」と名付けました。



### 初の周年行事開催

2016年11月には、2024年の創業100周年へ向けた周年行事の第一弾として植樹イベントを開催しました。

イベントには本社および国内5工場の従業員とその家族ら総勢53名が集まり、中辺路町森林組合の協力のもと、沢山の苗木を植えました。

また、薪割りやチェーンソー体験なども実施し、楽しみながら自然の持つ力やそれを守ることの大切さを学ぶ良い機会となりました。

CSR活動は従業員の協力があってこそ成り立ち、発展していくと考えています。ただし、ストイックにCSRを学び実践する事を求めるのではなく、楽しさややり甲斐を感じながら自発的に取り組める環境づくりが重要です。

環境貢献活動については、今後も同様のイベントを毎年開催しつつ、従業員参加型の活動を推進していきます。

## ”人財”活用／ダイバーシティの推進

### 育児中の支援

育児中でも、自分に合った働き方を選択できるよう、様々な取り組みを進めています。

本社および3つの工場にある社内保育所は、希望の保育園に入園できなかった場合の一時利用にも活用されています。

また、従来の育児休業規定に男性従業員の育休取得を認める条項を追加し、「社員の子育てをサポートする企業」として、2016年4月に「くるみんマーク」を取得しました。



保育所の様子



くるみんマーク

### 社員の声

#### 育児休暇を利用して 本社(管理部門)男性従業員

妻の出産後、子供の2週間検診などのサポートのために数日間の育児休暇を取得しました。元々当社は休暇を取りやすい雰囲気だったこともあり、その後もフレックスタイム制や有給休暇などを活用し、初めての子育てに夫婦で取り組むことができました。妻には喜んでもらえましたが、自分自身も子育ての実感と責任感をしっかり感じる事ができたと思います。

### なでしこプロジェクトの発足

職場の環境改善に力を注ぐ一方、男性比率の高さから、女性目線の課題に気づきにくい風土という課題があります。

そこで、女性の声を反映していくため、様々な部署の女性メンバーから成る「なでしこプロジェクト」を発足し、2016年度は現状の課題を共有しました。

今後は男性の参加も募り、なでしこプロジェクトの輪を広げて、活動を継続できるように取り組みます。

### 社員の声

#### プロジェクトに参加して

##### 東京支店(特機事業部) 大倉 萌さん

メンバーとして声がかかった時、他部署との交流にもなりそうという気持ちもあって前向きに参加しました。私が所属する部門も男性が多いですが、入社当初からとても良くしてもらっており、対人関係は充実しています。

その一方で、自分の成長について考えた時に、女性のモデルケースがまだ少ないと感じています。

結婚・出産などのライフステージを迎えても働き続けたいので、このプロジェクトを通じて職場環境の向上に協力しつつ、自分自身がモデルを示せるようになりたいと思います。



## リスク管理／BCP活動

### 地震災害BCPの展開状況

2011年の東日本大震災以降、各拠点の地震災害BCP(=防災計画)作成を進めてきました。

日本国内ではグループ会社も含めて計画の作成が完了しており、海外はフィリピンの2拠点に展開済みです。

今後は、訓練などの周知徹底活動を実施しながら海外への展開も進めていくこととなります。

日本では地震対策に力を入れていますが、海外では、その国その地域に応じたリスクを対象に計画を作成する方針です。

#### ■ BCP展開のイメージ



### 平常時のBCM活動

防災計画が有事に機能するよう、従業員への周知啓発や、緊急連絡先管理などを実施しています。

2016年度は、地震に限らず平時の緊急事態にも備えるため、心肺蘇生訓練を開催しました。

翌年度中には国内各拠点で一定人数の受講を完了させる計画です。

### 社員の声

#### 心肺蘇生訓練に参加して

##### 本社(特機事業部) 十代 香苗さん

心肺蘇生訓練は、学生時代にも受講したことがありました。最初は覚えていたつもりでしたが、数年経つと忘れていたことも多く、今回は良い復習になりました。通勤途中や社内でも多くの人が周りに居ますから、AEDを使用する確率が高いと思います。今回、改めて使用方法を学んだことで、社内のAED設置場所も把握しましたし、知識と共に意識も高まったと実感しています。





# 人権・労働慣行

NKCグループは、人権問題への正しい理解を促し、互いに尊重し合う心を育みます。従業員一人ひとりが経済的自立・健康的な生活・多様な生き方を実践出来るよう、仕事と生活の調和を推進します。また、全社を対象に労働安全衛生マネジメントシステムを構築・推進し、安全第一を掲げてゼロ災を達成します。

## 人材育成

### 目的・対象別教育・研修

#### 新入社員対象 入社時研修

2016年度は本社および工場で採用された新卒新入社員総勢32名に対し入社時研修を実施しました。

入社後1週間は、会社のルールや規則、社会人としての心構えなどを学びました。その後、工場採用者は各工場へ配属され、本社採用者は、技術研修から約1か月半の工場実習を経て、フィリピンで1か月間の語学研修を修了しました。慣れない英語生活に戸惑いながらも、共同生活を通して互いに仲を深めながら英語に馴染む貴重な研修となりました。

#### 新卒入社2年次対象 フォローアップ研修

新卒入社2年次を対象にフォローアップ研修を実施しました。参加者は、社会人としての基本姿勢やスキルを改めて学び、今後の目標を設定します。

今回は採用ポスターを作成するという架空の業務のもと、資料を調べたりインタビューしたりしながら情報を集め、アピール方法について活発に意見を交わしました。

最後には上司からのメッセージを受け取り、周囲の期待や自身の課題を再認識した上で今後の目標を整理しました。

### 社員の声

#### 海外語学研修を経験して

本社(軸受事業部) 田島 綾子さん

今回の研修では、他国の文化に触れたり当社のフィリピン工場で実習をしたりと、様々な学びがあり、大変有意義でした。

語学学校では各自のレベルに合わせてマンツーマンで学べた事が良かったです。私は元々英語を学んでいましたが、今回の研修では対話力を伸ばすという点で勉強になりました。現地で学んだことは現在の業務を進めるうえでとても役に立っています。

また、それまでは海外拠点で働くことについてあまり考えた事はありませんでしたが、今回の研修を通して興味が湧きました。



#### 中堅社員対象 経営人財塾

会社の将来を担う中堅社員を対象に、約半年間にわたって選抜式の新規事業立案研修を実施しました。

今年度は、前年度の研修結果である事業案の具現化を研修課題としました。業者・自治体などへのヒアリングや交渉をしながら仮説と検証を繰り返し、事業の具体的内容を詰めました。

研修の成果となる事業計画書は経営幹部へ提出され、実際に事業化するかどうか検討中です。

この実践的な取り組みを通じて、参加者は発想力・企画力など様々なスキルを身に付けることができました。

#### 新任基幹職対象 目標管理研修

新たに基幹1級職に昇級した者を対象に、目標管理研修を実施しました。

NKCグループで運用している目標管理制度の目的や効果的な運用方法などについて事例から理解を進め、最終的には各職場での役割に従って目標とそのアクションプランを作成します。

この研修は、製造や管理、営業など、部署も業務内容も異なる者同士が客観的にアドバイスし合うことで、広い視野で改めて業務を見直す機会づくりにもなっています。



語学学校での授業



フィリピン工場研修での集合写真

## ダイバーシティ&インクルージョン

### 公平公正な採用・登用

#### 男女比率平準化のための検討開始

採用における男女比率平準化を目標に、工場での女性採用について検討を進めています。

2016年度は、女性学生への周知活動として近隣の高校を訪問しました。

今後も学生への発信を継続しつつ、若い世代から男女共に活躍できる環境の整備を進めます。

### ワーク・ライフ・バランス

#### 育児休業規定の改定

育児休業規定の改定に伴い、2016年4月に厚生労働省より子育て支援企業として認定を受け、くるみんマークを取得しました。

その後、9名の男性従業員が育児休業を取得しています。

#### 在宅勤務制度の導入準備

働き方改革の一環として、どこでも働けるワークスタイルを実現すべく、在宅勤務制度の導入を進めています。

2016年度は、一部の従業員によるトライアルを実施しました。また、社内での理解浸透のために、本社の管理職全員が短期間のトライアルに参加しました。

次年度には制度を本導入し、利用を促進していきたいと思えます。

#### 女性の活躍推進活動

本社にて、2016年度のなでしこプロジェクトが開始しました。多様性に対応し、誰もが活力を持って働くことができる風土の醸成を目指して活動しています。

現在は女性メンバーのみですが、今後は男性メンバーの参加も募り、輪を広げていく計画です。

#### 企業内託児所の運営

本社および工場の合計4拠点で社内保育所を設置し、常時預かりに加え一時預かりも対応しています。

待機児童の問題を背景に、希望の園に入園できるまでの短期利用として重宝されています。

#### 労働時間の適正化

2017年度までに、平均総労働時間を間接部門1750時間、技術部門1840時間とする数値目標を掲げています。

その進捗管理のため、人事部門から各部署および労働組合に対し、総労働時間の結果を毎月報告しています。

また、フレックスタイムや在宅勤務などの制度による働き方改革や、業務整理、IT化などの取り組みを通して仕事を効率化し、労働時間の適正化を図っています。

### 社員の声

#### 在宅勤務トライアルに参加して

本社(輸送機事業部) 難波 修二さん

今回のトライアルには、上長からの案内を受けて参加しましたが、今までと働き方が変わるので業務の進め方など戸惑いがありました。

ただ、スーツを着て出社することに比べてメリハリが付き辛い一方、通勤ストレスが無く、空いた時間をほかの事に充てられるというメリットも感じました。

家庭の事情等で出社できないが業務も外せない、そんな時に有用な制度だと思えます。



#### 有給休暇の取得促進

日々の業務に効率的に取り組み、1年を通して計画的に有給休暇を取得できるよう、部署別に課員の有給取得計画を取りまとめ管理しています。その進捗管理のため、毎月の有給取得実績を労働組合に発信しています。

#### ストレスチェック結果の分析

このたびの法制化を受け、以前から実施していたストレスチェックの対象範囲を全直接雇用者に広げました。

結果は各自へフィードバックし、職場別に課題をまとめて管理職への報告会を開催しています。分析結果を基にコンサルタントの解説を聞くことで、普段は気付けない問題点が見えるほか、参加者同士で情報共有することで、全体の傾向把握と対応強化にも繋がっています。



# 人権・労働慣行

## 労使関係

### 健全な労使関係の構築

#### 定期的な交渉・情報共有の実施

従業員の雇用・職場環境向上のため、定期的に労使協議会を開催しています。

毎年、全拠点の労働組合を取りまとめるNKC労働組合連合会から春闘要求書を受領し、次年度へ向けて交渉を行っています。

各拠点における労働条件等に関しては、各労働組合支部と拠点の代表との間で交渉を行っています。



春闘要求書受領の様子

#### 定年後再雇用制度検討分科会立ち上げ

60歳定年後の再雇用については、法令に従い、本人の意思で決定できます。

この再雇用後の処遇をより良くし、最後までやり甲斐・働き甲斐を感じながら働けるよう、会社と労働組合との間で再雇用制度検討分科会を立ち上げました。

無年金期間のフルタイム雇用と給与減額制の見直しについて検討を進め、2017年度中には労働組合へ回答を提出する計画です。

## 労働安全衛生

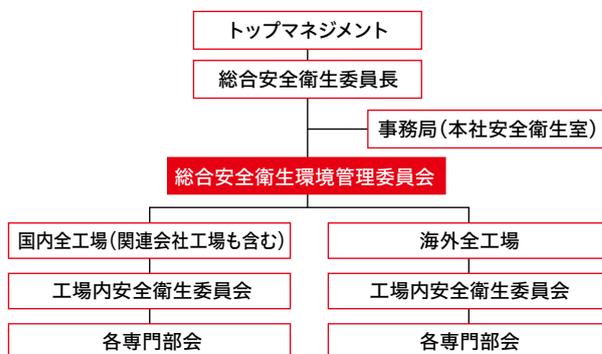
### 労働安全衛生管理

#### 工場間の情報共有(会議開催)

国内9工場が参加する「総合安全衛生環境管理委員会」および「安全環境TV会議」をそれぞれ年4回開催しています。「総合安全衛生環境管理委員会」については開催場所を各拠点持ち回り式にしており、現場パトロールも併せて実施します。拠点同士で活動状況を確認し合うと共に、各拠点の好事例を共有することで、安全衛生活動の水準向上を図っています。

海外7工場に対しては、年6回のTV会議を通じて、各々の活動状況の把握・情報交換を行なうことで活動水準の向上を図っています。また、本社の安全衛生事務局が隔年で訪問し、現場確認を行っています。

#### ■ NKCグループ安全衛生推進体制図



## パトロール

安全衛生委員会および安全部会による「安全パトロール」、防災部会による「防災パトロール」、5S部会による「5Sパトロール」、環境衛生部会による「衛生パトロール」など各種パトロールを実施しています。

全国安全週間、全国労働衛生週間、全国火災予防週間、大型連休前後などの時期に合わせ、それぞれのパトロールを強化しています。

## 内部監査

年1回、本社の安全衛生事務局による内部監査を各工場で実施しています。

関連法令の遵守状況を確認すると共に、年度ごとに重点監査テーマを決めて現場確認をしています。

2016年度は、化学物質の管理状況・回転機械の安全対策・粉じん爆発防止対策、設備チーム職場の安全管理状況などでした。指摘事項は一覧化し、改善のフォローも実施しています。

## 事故・災害の防止

### 無災害表彰

工場別に不休災害以上の年間災害件数を集計し、年間での無災害達成事業所には、表彰と全従業員への記念品を贈呈しています。

2016年度は、国内5工場、海外3工場が受賞しました。



年間無災害の表彰状

### 受賞工場一覧

国内	三重工場、滋賀工場、中西化工 播州中西金属、富士ホーニング工業
海外	[アメリカ] NAKANISHI MANUFACTURING CORPORATION [中国] NKC MANUFACTURING DALIAN CO., LTD [中国] NKC MANUFACTURING WUXI CORPORATION

### 朝礼時の基本教育

安全の啓発を日々繰り返して行うべく、朝礼時を利用して安全衛生基本教育を推進しています。

全員配布の「安全衛生手帳」や他事業所の災害事例、ワンポイントKY(P17「危険予知(KY)の推進」参照)、ひやりはっと・KY事例などからテーマを決め、職場単位で実施しています。また、その日の重点安全ポイントを「一人KY」として決め、朝礼にて全員で指差呼称の演練を実施しています。

### 有資格者への専門教育

重点7作業(フォークリフト・クレーン・玉掛・プレス・ロボット操作・溶接・砥石取替)および危険作業(高所作業・電気工事・粉じん・ロール・化学物質を取り扱う作業など)では、取扱指名者を社内認定し、年に1度、安全専門教育を実施しています。未受講者は、次年度に該当作業に従事できないルールにし、受講を徹底しています。

### 階層別教育

安全管理者教育や、職長教育、職長候補者教育、新入社員教育などの階層別教育を実施し、各々の立場での安全意識向上を図っています。またRST講座を受講することによって、職長教育の講師資格取得を推進しています。



# 人権・労働慣行

## 安全標語の募集

各工場にて、毎年全従業員を対象に安全標語を募集し、期間中に集まった標語の中から最優秀賞などを決めて表彰しています。

従業員が自ら安全を啓発するためのメッセージを検討することで、意識の向上を図っています。

## 社員の声

### 活動に参加して

中西化工 製造グループ 京田 清子さん

入社以来、今回が初めての受賞となり、とても驚きました。私たちの工場に限らず、怪我をしたりしそうになったりした事例を見聞きしてきたことから、もっと安全な職場になってほしいという思いがあり、今回の標語を考え付きました。

NKCグループの安全衛生への取り組みはとても熱心だと日々感じています。自分自身が気を付けることはもちろんですが、職場全体の意識が一層向上していくことを期待しています。

受賞  
標語

大丈夫？

あなたのしているその作業  
声をかけあう安全職場



中西化工の受賞者3名(真ん中が京田さん)



職場での朝礼の様子

## 防火活動

火災の予防および減災を目的とした消防設備の点検・フォロー、危険物の適正管理の徹底、防火パトロールなどの活動を実施しています。

また、昼勤者と夜勤者の両方に対して、通報・消火・避難などの消防訓練を実施しています。寮のある工場では、同様の訓練を寮内でも実施しています。

## 危険予知(KY)の推進

危険予知能力向上のため、トレーニングシートを用いた危険予知訓練を随時実施しています。

また、各々の作業で気を付けるべきポイントを簡潔にビジュアル化した「ワンポイントKY」を作成し、作業指示や朝礼時の基本教育で活用しています。

## 「KYカード」の運用

職場の危険箇所は、専用の「KYカード」を用いて報告するように運用しています。特に、作業者しか気が付かないような細やかな気づきの抽出には力を入れています。

抽出された事項には必ず改善対策を取り、各工場へ情報を共有、水平展開されていきます。

提出された「KYカード」は内容に応じて採点を行い、年に1度集計し、優秀な気づきが多かった事業所を表彰しています。

## リスクアセスメント

設備の導入・改修時には必ずリスクアセスメントによる労働災害防止対策を実施しています。

リスクが無くならない限りは設備を稼働できないルールを定めており、これによって、様々な危険要因に対して適切な手順・方法で危険の芽を摘み取ることに注力しています。

## 安全運転への取り組み

定期的に出退勤時のシートベルト・ヘルメット着用確認を実施しています。また、管轄の警察署に協力頂き、社内で交通安全講習会も開催しています。

更に、自動車・バイク・自転車運転者に保険加入を義務付けることによっても安全運転を啓発しています。

本社では、大阪府警が主催する大阪府無事故・無違反チャレンジコンテストに毎年参加し、安全運転の意識高揚を図っています。



本社での安全運転講習の様子

## 社員の声

### 安全運転講習を受講して

大阪工場 業務・生産管理グループ

#### 深薮 剛司さん

今回の講習では、「追突事故防止」や「出会い頭の衝突事故防止」などの方法についてよく理解できました。安全運転に対する意識の改善に繋がったと感じます。

普段、自分では車間距離を空けているつもりでも追突事故を起こす可能性はあるかもしれないので、今後はより一層安全運転を意識していきたいと思います。



## 快適な職場づくり

### 施設・設備の改善活動

厚生労働省の指針に基づき、各拠点での快適職場づくり推進活動を展開しています。

同指針で望ましいとされる「作業環境の管理」「作業方法の改善」「労働者の心身の疲労の回復を図るための施設・設備の設置・整備」「その他の施設・設備の維持管理」の4つの観点から職場環境を見直し、拠点ごとに様々な改善活動が進められています。

この活動は、安全衛生推進体制に従い、現在は関連会社にも活動を広げています。

### ■ 関連会社における改善事例(一部)



シャワー室設備の整備によるエリア美化(播州中西金属)



従業員用のメンタルヘルス相談エリア設置(須田商事)



分別用バケツ設置による廃棄物エリアの美化とごみの減量(富士ホーニング工業)



次亜塩素酸空間清浄機設置による事務所空間の快適性向上(イグローバレッジ)



収納棚の一斉更新による事務所内の5S向上(シー・ティ・マシン)

## 健康維持・増進

### 各種健康診断の実施とフォロー

法令に基づく定期・特殊健康診断を毎年実施しています。診断結果は本人へフィードバックし、産業医との個別面談による生活習慣病予防のフォローもしています。

また、季節の健康管理としては、夏場の熱中症予防や冬場のインフルエンザ予防などについて、医務室から定期的に情報を発信することで社内での啓発を進めています。

### ココロの健康診断

労働安全衛生法の改正により、労働者へのストレスチェックが義務化されました。

NKCグループでは法制化以前からこの取り組み（「ココロの健康診断」）を進めてきましたが、この度、診断の対象範囲を全直接雇用者に広げました。

診断結果は本人へフィードバックすると共に、職場ごとの集団分析結果を管理職に展開し課題の改善に結びつけています。

また、個人に対しては社内看護師によるフォローや社外相談窓口の設置を実施しています。

### 健康づくりの推進

「病気を早期に発見・治療する時代から、病気になる前段階でのライフスタイルを改善する時代へ」の考えのもと、全従業員に対して「体にいいこと」の実践の呼びかけを行いました。食事・運動・休養など、具体的な改善内容を盛り込んだ「健康手帳2016」の冊子を作り、各自の身の丈で1か月間健康づくりに取り組みました。その結果、セルフチェックポイントが20.2から25.0へと4.8ポイント向上しました。

この「体にいいこと」の推進は、従業員の方々への健康づくりの啓発活動として、毎年継続していく予定です。



「健康手帳2016」と「生活習慣改善BOOK」

## 社員の声

### 「健康手帳2016イベント」に参加して

滋賀工場 管理グループ 田村 正友さん

年齢と共に、ちょっとした体の不調も気になるようになってきたため、今回の取り組みは自身の健康を改めて考える良い機会となりました。社内配布された冊子を読んで、健康を維持・増進するために具体的に何をすれば良いのか理解できましたし、参加期間中は特に健康を意識した生活を実践できました。

私は普段から塩分・糖分の摂取量には気を付けており、仕事でもプライベートでも比較的体を動かしている方だと思いますが、今後も無理せず自分にできる取り組みの幅を増やしながら、より健康な状態を意識して行動したいです。



# 環境

自ら高い目標を設定し、環境の維持・改善・向上を目指します。事業活動においては、製品のライフサイクル全体を通して環境負荷を低減する技術を追及し、省エネやごみの減量・リサイクルなどのエコ活動を社内で徹底します。また、地域社会との連携も重視し、事業活動に直接的に関係しない場面においても環境貢献活動を行います。

## 環境保全

### 環境管理

#### 工場間の情報共有(会議開催)

環境管理委員長を議長とする総合安全衛生環境管理委員会は、年4回、国内各工場の環境管理責任者と推進担当者が集まり開催されています。

環境改善活動についての情報交換、法令改正対応等の水平展開などを目的とし、環境政策について迅速に対応できる体制としています。

また、国内外の各工場でも、環境管理責任者を中心に環境管理委員会を毎月開催し、環境方針および環境改善活動計画に基づいた活動の進捗管理と推進を図り、継続的な改善を行っています。

#### 外部監査

国内工場および関連会社において、ISO14001 認証取得を推進しています。

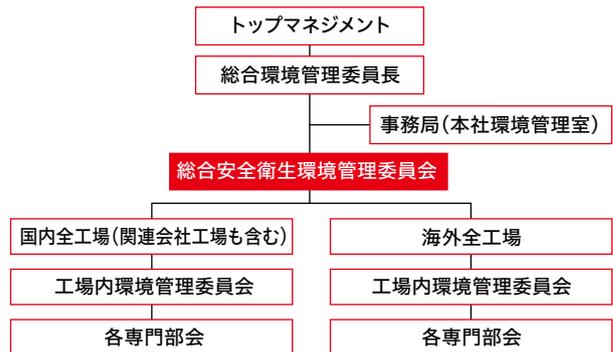
国内では、大阪工場、三重工場、名張工場、本社の天満製鉄事業部およびEPD室、また、関連会社である須田商事、富士ホーニング工業が認証を取得しています。各拠点に対し、NKCグループ環境方針のもと、環境マネジメントシステムを構築、継続的に改善し環境パフォーマンスの向上に努めています。

第三者認証機関による定期監査の結果は、2016年度も不適合は0件で、その有効性は継続して認められています。2015年9月にISO14001の規格改訂が行われたことを受け、認証取得工場は2017年度中に2015年版規格への移行を完了する予定です。



外部監査の様子

#### NKCグループ環境管理推進体制図



#### 内部監査

外部機関による監査だけではなく、マネジメントシステムの有効性の評価と、改善活動のレベルアップを図るために、内部環境監査員による内部監査を定期的実施しています。認証を取得していない国内工場でも、認証取得工場と同等の環境マネジメントレベルを確立しており、定期的に内部監査を実施し、継続的な環境改善活動に繋がっています。海外工場でも、それぞれの地域の状況に合わせた環境改善活動を推進しており、活動内容と進捗は、TV会議で2か月ごとに確認を行うほか、2年ごとに本社環境管理部門担当者が現地を訪問、具体的実施内容の現場確認とフォローアップおよび情報交換を行っています。



内部監査の様子

## パトロール

各工場において、環境管理委員会のもとに環境改善活動を具体的に推進する各種専門部会を設置しています。

環境に関する部会は、定期的に工場内の環境パトロールを実施し、改善活動の推進を行っています。具体的には、各職場の騒音や照度の状況確認、快適かつ健康な就業環境を確保、省エネの推進に努めているほか、廃棄物の分別確認を実施しており、問題があれば即時に改善を行うようになっています。

## 産業廃棄物処理業者現地確認

産業廃棄物の適正な処理は排出事業者の責務です。廃棄物の処分を委託している業者の現地確認を社内ルールとして義務付け、2008年から毎年実施しています。

2016年度は対象12社を現地訪問し、適正に処理されていることを確認しました。

また、電子 manifests の利用拡大を進めると共に、優良産業廃棄物処理業者認定制度が適用される業者との契約を推進しており、未認定の業者にも認定を受けるよう積極的に働きかけています。

## 省エネ

### 原単位管理・デマンド管理

地球温暖化防止のため、長年にわたり各拠点で積極的に二酸化炭素の排出削減に努めてきました。

ベアリング工業会が掲げている目標値(1997年度実績に対し、2020年度までに原単位で23%削減)に対し、2016年度もNKCグループ全体で達成しました。

また、全工場で電力負荷削減のためデマンド監視システムを導入し、最大需用電力を抑制して省エネを推進しています。

## NKCグループ「環境大賞」

環境改善活動の全社的推進と定着のため、環境大賞を創設し、優秀な実績をあげた工場を表彰する制度を導入しています。

環境大賞は2001年度(2000年度実績)に創設され、2016年度は16回目となりました。年間の①省エネ実績②廃棄物再生資源化率③環境活動改善事例④その他特筆事例の4項目について本社事務局が中心となる専門メンバーで採点を行い、最も点数の高かった工場が受賞します。2016年度は名張工場が受賞し、記念品が贈呈されました。



### 省エネルギー活動と新電力の活用

地球温暖化防止のための二酸化炭素排出削減に向け、各工場では製造設備や付帯設備の改良、見直しを計画的に行っています。

名張工場ではコンプレッサの最適化や排熱を再利用してエネルギー消費の削減に効果を上げており、大阪工場では排水処理場のブロワモーターの高効率化、三重工場では省エネ型加硫機の導入などを実施しています。

また、NKCグループ全体では、新電力への切り替えと活用も開始しており、二酸化炭素排出削減に向けて、様々な施策を実施しています。

## 小集団活動

全社的な環境改善活動を推進する一方で、現場レベルでの活動も推進しています。職場単位・現場目線で「もったいない!」「無駄ではないか?」と感じたことを改善に繋げるエコチーム活動や改善提案制度を各職場で実施しています。具体的な事例では、①出荷作業の見直しによる運送便の効率化および運搬の集約化、②仕掛り品の移動梱包時に使用するストレッチフィルムを可能な限り再利用可能なエアキャップへの変更、③木製パレットの修繕による再利用などです。

今後も小集団活動等を通してエコ意識を持った職場作りを推進していきます。

## 社員の声

### 小集団活動に取り組んで

#### 名張工場 業務・生産管理グループ 樹脂出荷チーム

我々の工場では、納品のために毎日定期便を利用してきました。今回は、運送トラックへの積載量に毎回バラつきがある点に着目し、より効率的に運用するために見直しを行いました。最初に、日々の積載量の調査から始めました。製品は種類によって形も大きさも違いますから、箱に入っている数も大きく違うので、箱を載せるパレットの数を基準にしました。また、定期便には当社の他工場の製品も載せるので、本社の営業部門にも問い合わせるなどして集計を進めました。そして、調査結果から定期便数の最適化案を検討し、お客様の承認を頂いたうえで運送業者と調整して実現の運びとなりました。この見直しによって、環境面では二酸化炭素の排出量削減に繋がりましたし、社内でも作業者の工数負担減などの結果を出せました。

また、今回は初めて若手2名にチームのリーダーとサブリーダーを任せましたが、それぞれ「計画・実行・確認・行動」のサイクルをよく理解し取り組んでくれました。活動結果報告でも2名の前向きな性格と技量が発揮され素晴らしい発表となり、大変良かったです。



樹脂出荷チームの皆さん  
右端：南さん(リーダー) 真ん中：前川さん(サブリーダー)  
左端：中本さん

## エコカー利用の促進

低炭素社会への実現へ向けて、NKCグループ全体で社用車の燃料使用量の削減に取り組んでいます。2003年からエコカーへの切り替えを促進し、現在使用している社用車の90%以上がエコカーです。このような活動が認められ、本社では2013年に、「おおさか交通エコチャレンジ賞」エコカー使用等の推進部門で優秀賞を受賞しました。

社用車を運転する従業員には、大気汚染や地球温暖化の防止、そして安全運転のためにエコドライブ教育を実施、推奨しています。

また、本社の社用車の燃料使用に伴う二酸化炭素排出量は、2015年度よりその全量を、新潟県の「トキの森クレジット」を利用しカーボン・オフセットし、排出量の削減だけでなく生物多様性にも貢献しています。



本社で使用しているエコカーの例



社用車のステッカー

## 『Fun to Share』と『COOL CHOICE』

低炭素社会の実現へ向けて環境省が推進する『Fun to Share』活動および地球温暖化対策のための国民運動『COOL CHOICE』に賛同しています。これらの活動は企業・団体・自治体が賛同登録し、低炭素社会に繋がる技術や知恵、取り組みを広く“シェア”しながら、気候変動に対し有効な「賢い選択」を実施していこうとするものです。

2016年度もクールビズ・ウォームビズの実施、エアコン温度管理やエコドライブの推進等、繋がる二酸化炭素排出量削減に向けての取り組みを継続しています。

## 省資源

### ゼロエミッション

産業廃棄物の削減活動への取り組みの結果、2007年度には国内全拠点でゼロエミッションを達成しました。これ以降、10年間ゼロエミッションを継続しています。

“分ければ資源 混ぜればただのゴミ”をキャッチフレーズに、各拠点では、廃棄物の分別基準に従い分別を実施し、有価物化したり、徹底したリサイクルに取り組んでおり、焼却処分される、いわゆる一般廃棄物の排出量を極小化しています。本社での実績例では、発生する一般廃棄物の量は、ひとり1日当たり約15グラムです。

### 汚染の防止

特定の工場では、排水の水質の監視と評価のみでなく、有害物質や油類の漏洩による土壌汚染がないことを、地下水をモニタリングし定期的に確認しています。

また、有害物質の外部への漏洩を想定した緊急時の対応手順書を作成し、該当する物質を取り扱う従業員による緊急時対応テストを毎年実施、環境汚染の防止に努めています。このテストは、昼間だけでなく、夜間の緊急事態も想定しています。

そのほか、低濃度PCBに汚染されている可能性がある変圧器等について、廃棄物処理法やPCB特措法に定められた基準に従い厳重に管理し、早期に無害化処理が完了するよう監視体制を整えています。

### 排水の管理

工場から有害物質や油類が、工場外部に流出・漏洩することは、周辺環境の水質汚濁につながり、地域社会にとって大きな脅威になります。各工場からの排水は排出量自体は多くはありませんが、全て適正な処理を行っています。各工場では、水質汚濁防止法、下水道法および各自治体の条例等の規制基準よりも厳しい自主基準値を設け、排水の水質の監視と評価を行っています。2016年度も、全ての工場からの排水は、行政の規制基準を満たすだけでなく、自主基準値内でした。

### リデュース・リユース活動

ゼロエミッションだけでなく、リサイクルされる産業廃棄物や有価物に関しても、その総量削減に継続的に取り組んでいます。

薬品による表面処理を削減することにより、その廃水処理時に発生する汚泥の削減を行ったり、納入品の梱包形態を見直して包装紙を削減したりして、各拠点で廃棄物発生量の抑制のための活動を進めています。

また、床清掃用の用水に雨水を利用するなど、使用する資源の削減にも取り組んでいるほか、本社から排出される廃パレットを再利用し、外壁の装飾に利用するリサイクルループを試行的に実施しました。



廃パレットを外壁の装飾に利用した事例

## 化学物質の管理と使用量削減

年々強化されていく化学物質の使用や含有に関する法令、規制に対して適切に対応できるよう、社内標準を整備し運用すると共に、定期的に見直しを行い、原材料の調達から製品出荷までの全工程にわたる各種禁止・規制化学物質の管理確認を行っています。

また、化学物質自体の使用量削減への取り組みとしては、2016年度は三重工場では、表面処理工程の削減により、使用物質とその廃水処理用物質の使用量を大幅に削減しました。

また、大阪工場では洗浄工程を見直し、危険度の低い物質への転換とクローズドシステムによる使用量自体の削減を実施しました。

## 社員の声

### 化学研磨処理、廃止への取り組み

三重工場 品質保証グループ

#### 玉田 正晃さん

プレス機械を使って金属板をくり抜くと、不要な突起(バリ)が発生します。このバリを取るために、従来は化学薬品による研磨(化学研磨)をすることで対応してきましたが、この度、工場内のプレス機械を有効活用し、工程を変更して化学研磨を廃止することができました。

ただ、一口に工程変更と言っても簡単に実行できた訳ではありません。変更しようとする過程で発生する様々な問題を解決しながら進める必要があります。これには、我々の工場だけでなく複数の関連部門の尽力があり、共に取り組み解決しながらたどり着くことができました。関係者の皆さんには本当に感謝しています。

今回の工程変更による効果ですが、化学薬品の使用量が減ったので、環境面では排水およびそれに伴う汚泥の処理量が削減できましたし、社内的には製造工程が分断されることなく完結するため生産性の向上に繋がりました。

今回の取り組みを通じて、新しいものを取り込むことの難しさを実感しましたし、それを確立させるまでのステップは、今後新たな案件が出た時にも活かすべき内容と感じています。



## 地域社会への配慮

### 騒音・振動・臭気調査

工場からの騒音・振動は周辺地域へ直接影響が及び、快適な環境を阻害します。これらについても、自治体の規制基準に定められた頻度で、定期的な監視と評価を実施し、環境の保全に努めています。

また、特定の物質を扱う工場では、適切な排気処理を行うと共に、定期的に臭気測定を実施しています。2016年度も全ての工場で、騒音・振動、臭気について規制基準を満たしており、これらに関連する周辺地域からの苦情や要望はありませんでした。

### 再生エネルギー事業、環境関連製品

環境に配慮した取り組みと安全で安定的なエネルギー供給を通じて持続可能な社会の実現に貢献していくため、風力や太陽光利用、バイオマス燃料による発電といった再生可能エネルギーの積極的な活用に取り組んでいます。

最近の具体的取り組みとして、EPD室ではC&F社製小型風力発電機の販売を行っているほか、2017年6月からはNKCながいグリーンパワーの木質バイオマス発電所が供用を開始する予定です。



# CSR経営

関係法令や社内規定はもちろん、取引先との秘密保持契約を誠実に履行し、健全な関係を築きます。業務上の情報は所定の業務目的に限り利用し、紛失・盗難・漏洩が発生しないよう適切に管理します。会社が発信する情報については、透明性を重視し、適宜適切な開示に努めます。また、従業員一人ひとりが倫理観を持ち、公私の区別を厳格に行うことを徹底させます。

## 組織統治

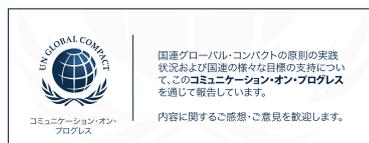
### 内部統制

#### 国連グローバル・コンパクトの行動基準に賛同し実践

2015年4月に国連が提唱するグローバル・コンパクトに加盟しました。

国連グローバル・コンパクトは、企業がグローバルな観点で社会の一員として行動するよう促し、国際社会全体の持続可能な発展を目指すものです。そのための行動基準として、人権・労働・環境・腐敗防止の4分野で10の原則を定めており、参加する世界各国の企業は、その影響が及ぶ範囲での実践を求められています。

当社でも、関連団体からの情報収集や社内規定の改定などによる体制づくりを進めており、具体的な活動の実践へ向けて取り組みを継続します。



※国連グローバル・コンパクトの原則に従い活動している事の証明として、本報告書を通じてグローバル・コンパクトの本部へ報告しています。

#### NKCグループCSR方針の制定

事業活動に国連グローバル・コンパクトの精神を反映し実践するため、CSR方針を改めて制定しました。

「NKCビジョン」はそのままに、「NKCグループ企業行動憲章」を改定、従業員の行動指針となる「NKCスタンダード」を新たに作成しています。これにより、これまでは詳細な規定が無かった人権について、従業員をはじめ全ての人々の多様性を受容すること、および強制労働や児童労働を排除し人権を尊重することを決めました。

コーポレートサイトおよび本CSR報告書を通じてCSR方針を公開しています。

今後は社内向けの周知活動も進めることで、従業員と共に活動を推進する態勢を整えます。

## リスク管理

### 地震災害想定訓練

大規模地震の発生に備えたBCM(事業継続管理)活動の一環として、従業員への教育・啓発を重要視しています。

2016年度は、安否確認テストを継続実施したほか、新たに心肺蘇生法の訓練を取り入れました。また、本社において災害対策本部の立ち上げ・運営訓練を実施し、発災後の一連の流れをシミュレーションしました。

次年度以降は、従来からの取り組みを継続し発展させると共に、新たな訓練も取り入れながら、有事に備える体制づくりを進めます。



本社 災害対策本部設置訓練の様子



消防署による普通救命講習の様子

### 災害対策用物資拡充

定期的な備蓄品の購入その他防災対策用品の整備を進めています。数年単位での購入計画を作成しており、特に賞味期限や使用期限があるものについては、一度に必要な量を全数購入するのではなく、毎年の購入量を平準化しています。2016年度は、定期購入品とは別に、AEDの増設も進めました。本社にて従来の3台に追加7台を設置したほか、グループ会社の工場でも新規購入・更新を進め、従業員への設置時講習や地域住民への利用拡大なども実施しました。

また、海外工場でも本社の事例を参考にAEDを増設し、各職場から短時間で取りに行くことができるようにするなど、各拠点にて工夫がなされています。



導入したAEDは地域へも利用を開放

## 情報セキュリティ対策

企業や組織を脅かす多様な情報セキュリティ上のリスクに対して、国内各拠点への「セキュリティ安全管理規定」を展開しています。この規定は資料の持ち出しや保管・入退室管理・アクセス管理・委託先管理など、包括的(人的、物理的、電磁的)な情報の取り扱い手順を定めたものです。

現在は本社・名張工場・大阪工場・三重工場・中西化工・東京支店等で実施されています。

今後は、内部監査およびそのフォロー業務、現在未展開の拠点への拡大を進め、NKCグループ全体の情報セキュリティ対策の強化へ向け活動を継続する計画です。



グループ会社を含めた国内各拠点へ展開中

## コンプライアンス

### 下請法遵守

企業のコンプライアンスが強く叫ばれる中、下請法違反は企業価値を大きく損なう行為です。近年、経済産業省や公正取引委員会は、下請取引の適正化を推進しており、NKCグループにおいても、その推進と理解に努めています。

新規取引先の支払条件のチェックをより厳しく行い、また既存取引先の管理も徹底して行うことにより、安心・安全な取引の向上に努めています。

新規事業においては、早い段階から下請法違反が出ないように対応を手掛けています。

今後は、下請法の「運用基準」、下請振興法に基づく「振興基準」、下請代金の支払いに関する「通達」の改正対応が急務と考え、社内調査・改善活動の強化を検討中です。

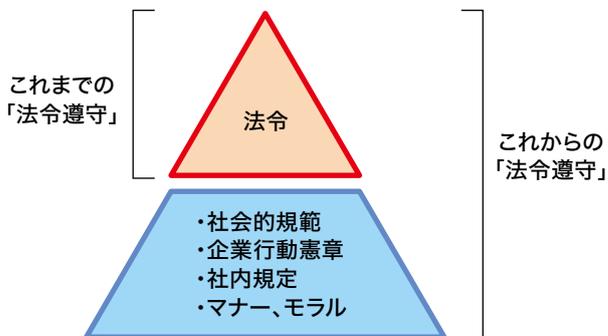
### 社内外通報窓口

従業員用の相談窓口として、社内外に通報窓口を設置し運用しています。このうち社外の窓口については、メンタル全般とハラスメント関連のそれぞれで専用の窓口を設けており、従業員へは、通報方法を記載したカードを入社時に配布して周知しています。

また、通報以前の相談については、社内看護師が各拠点を巡回し、対応しています。

### ■ NKCグループにおけるコンプライアンスの考え方

従来は法令等を守ることが目的と捉えられてきましたが、現在では、「法令遵守」が求める範囲を社会的規範やマナー・モラルまで広く捉える考え方が一般的です。NKCグループにおいてもこの考え方のもと、従業員の意識向上を図っています。





# 社会貢献

地域社会とのコミュニケーションを通じて相互理解を深め、課題を的確に認識すると共に解決と発展へ向けた貢献活動を積極的に展開します。

## 関係の構築

### 対話と反映

#### 地域住民・団体へのヒアリング

継続的に実施可能かつ貢献度の高い地域貢献を目指し、地域の自治体や団体へのヒアリングを実施しています。この取り組みによって、貢献先のニーズを知り、「金銭・物資・人手」の様々な資源を活用して本当に必要とされる活動に繋げていく事を目的としています。

2016年度は、地域活動の取りまとめを行う団体のほか、生活保護施設、フードバンク等を訪問し、主に食材の寄付に関するヒアリングを実施しました。

2017年度は、各方面から集めた実態・要望等の情報を基に新たな活動を検討していく計画です。

#### 従業員からの意見収集

社会貢献活動の発展には従業員の協力が不可欠ですが、参加する本人が楽しさや充実感を持つことも同じく重要と考え、従業員目線での活動の企画を進めています。

2016年度は、CSR報告書アンケートを通じて意見や要望を収集しました。中には、プライベートで取り組むボランティア活動の支援を求めるものもあり、ワーク・ライフ・バランスを推進する企業としてサポートの重要性を実感しました。

2017年度には「従業員と共に取り組める活動」として、社会貢献と福利厚生を兼ねた活動を企画・実施します。

## 貢献活動

### 地域・団体の活動支援

#### 地域の予防防災

本社所在地である大阪市北区にて北区役所と「防災パートナー協定」を結び、非常時はもちろん平常時の予防防災への協力を約束しています。2016年度は、大阪市北区内の各小学校(指定避難所)へ医療キットを寄贈したほか、中学生向けの防災学習用にアルファ化米を寄贈しました。

今後は、地域学生へ向けた防災教育の機会などを自主的に開催し、地域全体で減災に取り組みたいと思います。



地域の学校で開催された防災学習教室にアルファ化米を寄贈

#### 被災地支援(熊本地震)

国内外で発生する自然災害の被災者・地域に対して、会社名義および従業員カンパによる寄付を実施しています。

2016年度は、熊本地震に対する復興支援として、グループ会社を含む国内各拠点から被災地域への寄付を実施しました。

#### 周辺地域の清掃活動

最も身近な社会貢献活動の一つとして、長年にわたり本社・工場・出張所等の多くの拠点で地域清掃を実施しています。

清掃することによって地域美化はもちろん、防犯にも効果を発揮しています。

2016年度は、本社周辺地域で発生していた引ったくりに対し、証拠の発見および防犯カメラの設置によって予防対策を実施しました。

#### SDDへの賛同

2009年よりFM OSAKA主催SDD(Stop! Drunk Driving Project)に協賛しています。このプロジェクトは、飲酒運転撲滅へ向けて広く社会へ共感を呼びかけるもので、その主要な活動としてSDDステッカーを配布し、飲酒運転撲滅の呼びかけを行っています。また、協賛活動の一環として、FM OSAKA主催のSDDライブに内定者が参加し、飲酒運転について深く考える機会を与えています。



SDDのオフィシャルロゴ

## 生物多様性保全

### カーボン・オフセット

NKCグループでは、2014年からカーボン・オフセットへの取り組みを続けています。

2016年度は、EPD室製品の生ごみ処理機稼働に伴う排出分に対して三重県の森林保全プロジェクトを通じて20トン、また、本社の営業車稼働に伴う排出分に対して新潟県のトキの森プロジェクトを通じて32トンを相殺しました。

そして、5月のG7伊勢志摩サミット開催に伴い連動して展開されたカーボン・オフセットへの協力として、長野県木曾町、三重県大台町および熊本県が募集するプロジェクトを通じて合計50トンの二酸化炭素を相殺しました。



長野県木曾町長より記念盾を受領

### NKCグループ 悠久の森

森林保全活動の一環として、2016年8月に和歌山県が募集する「企業の森」に調印し、田辺市中辺路町の熊野古道近隣の森林地2ヘクタールをお借りしました。同年11月にはNKCグループ100周年へ向けた周年行事の第一弾として植樹イベントを開催し、従業員およびその家族50名以上が集まり植樹活動のほか薪割りなどの体験も実施しました。今後も、お借りした森林地を福利厚生や研修の場として活用しながら森林地の成長を見守り、従業員の環境意識向上に努めます。

### 屋上菜園

本社の建屋屋上に屋上菜園を導入し、社内保育園児童向けの食育の場として活用しています。

2016年度はミニトマトやシシトウガラシ、ピーマン、春菊などの野菜を栽培し、頻繁に水遣りが必要な夏場には従業員からお世話係を公募しました。実った野菜は子どもたちの手で収穫され、本人たちが持ち帰ったほか、社内食堂を通じて従業員へも提供されました。

社内保育園の子どもたちが一般の保育園と同様に様々な経験をすることができるよう、緑と触れ合う貴重な場として今後も菜園の管理を継続しながら、従業員にとっても楽しむことができる場となるよう活用方法を検討していきます。



屋上菜園収穫の様子

### 社員の声

#### 屋上菜園のお世話係を体験して

本社 CSR統括部 環境管理室

#### 瑞泉 等さん

社内掲示板を見て、屋上菜園のお世話係を公募していると知りました。普段、街中に住んでいては経験できない収穫体験をできることや、日常業務では関わるることのできない従業員同士での交流に魅力を感じ応募しました。実際に参加してみると、社内保育園の児童も楽しそうに収穫していたり、親子で参加している従業員の普段見られない表情を見ることができたり、非常に有意義でした。収穫体験という非日常の中に、一時の楽しみが相まって、充実感たっぷりでした。

今後も屋上菜園での収穫や種まき体験を通して、社内環境意識の向上はもちろん、社内コミュニケーションの充実や保育園児童の食育促進が広まっていくことを楽しみにしています。





# 社会貢献

## 社会福祉

### 就労施設への仕事発注

職業的自立促進や就業の安定を目的に、福祉施設からの製品購入や、社員食堂でのパン販売などを実施しています。2016年度も、本社や滋賀工場などでパン販売を実施し、福祉施設入所者による手作りパンを求めて従業員が集まりました。

このような活動を通して、あらゆる人々に働きがいのある場を提供し就労支援をすることも大事な社会貢献活動と捉えています。



社員食堂でのパン販売の様子

## 教育振興

### 中西奨学会

一般財団法人中西奨学会は、昭和46年の設立以来、数多くの学生生徒を支援してきました。

2016年度も高校生・高等専門学校生・大学生・大学院生を対象に総勢50名を採用し、前年度からの継続生と合わせて105名に4千万円近くの奨学金を給付しました。また、同年6月には、採用中の大学生および大学院生を対象とした奨学生懇親会を開催し、中西金属工業の従業員による就職活動相談会や財団役員との懇親パーティなどのプログラムを実施しました。

一方、この奨学金とは別に、産業科学に関する研究助成金の給付事業も行っています。2016年度は過去最高となる17件の応募を受領し、内5件に計5百万円の助成金を給付しました。



奨学生懇親会の様子

### 食料の寄付

BCP活動の一環として進めている備蓄食の整備ですが、その全てについて3~5年で賞味期限が到来します。当然ながら賞味期限切れの備蓄食は誰にも提供することができません。それらを廃棄することなく有効活用できる手段の検討を進めています。

2016年度は、従業員への配布のほか、自治体やフードバンクへ寄付し日常生活において支援を必要としている方々への支援物資として活用されました。しかしながら、企業の都合によって購入された備蓄食は、必ずしも支援を必要とする人たちに喜んでもらえるとは限りません。今後は、備蓄食に関しては新たに購入する際に期限切れが迫った場合の対処も想定するようにし、備蓄食に限らず広く従業員に協力を求め家庭で不要となった食材を募り、寄付するなど実施する計画です。

### 社員の声

#### 貧困地域の小学校への慰問活動を開始

NKC Manufacturing Dalian CO., LTD

江 錦華さん



我々の工場は2016年で創業14年目を迎えました。その歴史の中では、NKCGループのCSR方針に基づき、生産活動と共に地域貢献にも尽力してきました。

これまでの取り組みとしては、近隣地域の清掃活動などがありますが、2016年度からは新たに貧困地域にある小学校への慰問活動を開始しました。我々の工場で勤務する従業員はその大半が大連近郊の農村部出身であり、故郷では様々な原因で生活困難な家庭がまだまだ残っています。そのような家庭に対しては、政府からの学費援助がありますが、それだけでは学校での生活用具や勉強道具などにまで手が回らず困っている現状があります。そこで、我々は教育支援が一番の社会貢献と考え、農村部の小学校を慰問、当日は工場としての寄付金に加え従業員から募った募金や文房具、体育用品等を「瓦房店市徳深中心小学校」の児童21名にプレゼントしました。

子どもたちが将来に希望を持てるよう、これからもこの活動を継続致します。



小学校慰問時の集合写真

# 会社概要

社名 中西金属工業株式会社 従業員数 3,115名(グループ会社含む)  
設立 昭和16年6月19日 本社所在地 大阪府大阪市北区天満橋3-3-5  
資本金 25億1,250万円

事業内容 ベアリングリテーナー、コンベアおよび自動制御装置、サッシ用戸車、住宅関連製品、ゴムシール、  
精密金型、無人搬送車、各種金属プレス加工品、各種樹脂射出成形品、冷間圧延鋼板等の製造販売  
代表者 代表取締役社長 中西竜雄

## 国内拠点

- 本社 本社(大阪府大阪市)
- 工場 大阪工場(大阪府寝屋川市)、名張工場(三重県名張市)、三重工場(三重県津市)、  
滋賀工場(滋賀県湖南市)、中西化工(大阪府寝屋川市)
- 支店 東京支店(東京都中央区)
- 営業所 愛知営業所(愛知県知立市)
- 出張所 愛知出張所(愛知県知立市)、湖西出張所(静岡県湖西市)、厚木出張所(神奈川県厚木市)、  
九州出張所(福岡県京都郡)

## 海外拠点

- 北米・中南米 NAKANISHI MANUFACTURING CORPORATION(アメリカ)  
NKC OF AMERICA INC. HEADQUARTERS(アメリカ)  
NKC CONVEYORS INSTALLATION CO.(アメリカ)  
NKC OF CANADA, INC.(カナダ)  
NAKANISHI CONVEYOR DE MEXICO S.DE R.L.DE C. V(メキシコ)
- アジア・オセアニア NKC MANUFACTURING PHILIPPINES CORPORATION(フィリピン)  
NKC CONVEYORS PHILIPPINES CORP.(フィリピン)  
NKC MANUFACTURING WUXI CORPORATION(中国)  
NKC MANUFACTURING DALIAN CO., LTD.(中国)  
NKC CONVEYOR FOSHAN CO., LTD.(中国)  
NKC CONVEYORS (AUSTRALIA) PTY. LTD.(オーストラリア)  
TAIWAN NAKANISHI CONVEYORS CO., LTD.(台湾)  
NAKANISHI CONVEYORS ENGINEERING (MALAYSIA) SENDRIAN BERHAD(マレーシア)  
THAI NAKANISHI CO., LTD.(タイ)  
NKC CONVEYOR INDIA PRIVATE LTD.(インド)  
NKC CONVEYOR INDIA PRIVATE LTD. SALES OFFICE(インド)  
PT. NAKANISHI INDONESIA(インドネシア)
- ヨーロッパ NKC CONVEYORS (UK) LTD.(イギリス)  
NKC CONVEYORS (UK) LTD., HUNGARIAN OFFICE(ハンガリー)  
NKC CONVEYORS BARCELONA(スペイン)  
NKC MANUFACTURING SWEDEN AB.(スウェーデン)

## 関連会社

コレック株式会社、中西興産株式会社、ノイエス株式会社、播州中西金属株式会社、シー・ティ・マシン株式会社、  
イーグローパレッジ株式会社、富士ホーニング工業株式会社、株式会社須田商事、アイ・エス・エイ株式会社、  
むらやまソーラーパワー株式会社、ながいグリーンパワー株式会社

## 2016年度 NKC年間トピックス

### 4月



① 新入社員一同(その1)



② 新入社員一同(その2)

- ①② 2016年度入社式開催
- ③ 「Sakura Garden Hotel」開業  
(アイ・エス・エイ株式会社)

### 5月



③ Sakura Garden Hotel(大阪・都島)



④ 自家源泉の宿 有馬街道 ゆうわ(兵庫・神戸)

- ④ 「自家源泉の宿 有馬街道 ゆうわ」  
NKCグループ入り  
(アイ・エス・エイ株式会社)

### 6月



⑤ 「成長する家具」シリーズ設置例



⑥ 「murdeco COCOON」シリーズ設置例

- ⑤⑥ 木工家具の製造販売開始、  
専用サイト「NKC finetierior」  
オープン

### 7月



⑦ 農作業支援ロボット「アグビー」



⑧ 秋田県由利本荘市の導入事例

- ⑦ 農作業支援ロボット「アグビー」公開
- ⑧ C&F社製風車販売開始、  
秋田県由利本荘市に導入
- ⑨ フィリピン事務所15周年を迎える

### 12月



⑨ フィリピン事務所従業員



⑩ 羽田空港ロボット実験プロジェクト  
2016第1期採用ロボット

- ⑩ 自動床洗浄ロボット  
「ROBO Cleaper」、  
羽田空港実証実験に採用

**NKC** 中西金属工業株式会社  
Nakanishi Metal Works Co.,Ltd.  
<http://www.nkc-j.co.jp/>



国連グローバル・コンパクトの原則の実践  
状況および国連の様々な目標の支持につ  
いて、このコミュニケーション・オン・プログ  
レスを通じて報告しています。

内容に関するご感想・ご意見を歓迎します。

コミュニケーション・  
オン・  
プログレス



くるみんマーク  
(一つ星)  
2016年4月に  
取得しました。



Fun to Share  
環境省が推進する気  
候変動対策への活動  
に賛同しています。